

森と暮らしをつなぐ 「MORITO」ブランド

優れた木製家具を表彰するデザインコンペで、創業95年の歴史を持つ宇陀市菟田野の森庄銘木産業株式会社(森本定雄代表取締役)が出品したポールハンガー「THE HINOKI 100(ザ・ヒノキ ワンハンドレッド)」が見事入選した。全国317の応募作品から入選した12作品の一つ。今年「森と暮らしをつなぐ」をコンセプトに新ブランド「MORITO(モリト)」を立ち上げた林業家であり、インテリアコーディネーターでもある若き取締役専務森本達郎さん(29)は「森がより良い形で残っていくように、みんなでデザインしていきたい」と目を輝かせる。

Made
in
奈良

宇陀市 森庄銘木産業株式会社



取締役専務
森本達郎さん

同社の創業者は森本庄作氏。企業理念の「吉野の山を守り継ぎ、伝統ある銘木の技術を磨く」は、会社として法人化した昭和52(1977)年の2代目の時。林業家「森庄」として世の中に発信し続けている。

「木を育てて誰かに届けるまで林業家。ある種、社会をデザインする役割を担っているわけですね。林業家はその山の管理、境界を明確化することや獣害対策の事業もあり、広く日本の森林が後世に続くよう、どのようにしていけばいいのかわからないことを考えています」と森本専務は強調する。

木、本当に僕のような新入社員でも2年、3年の間で月に1000万、2000万円を木材だけで販売しなければならぬという中で、日本の流通の仕組みがすごく分かりました。いつもお客さまが必要としている木材がどういうものなのか。僕としては技術の立場から見えた3年間でした」と振り返る。

現在、森林デザイナーとしてのもう一つの顔を持つ森本専務。「思いとしては、森を生かすこと。人と自然の調和の部分。人工林が何十年、何百年と続いているわけなんですけど、いろんな木があるんですよ。それを手入れする、いろんな人がいるわけですね。僕は木の個性を生かす、人の個性を生かすというのをテーマにしていって、デザイナーとして大きくやりたいことは、山の価値を上げることです」と話す。

林業をやりながら卸ばかりの仕事から、新しく小売りの事業としてホームページを立ち上げ、オンラインショップを作って消費者の目に届けた。「SNSをやり始めて、森林ツアーで山に来ていただいた、いろんなデザインコンペにも出すようになりました。さまざまな形で森のやっっていることや僕がやっっている森づくりのことが、たくさんの方に届けられるようになりました」と目を細める。

商品は伝統の磨き丸太の技術が生かされたものばかり。「磨き丸太はエコなんです。燃料を使っている乾燥ではなく、天然乾燥をするんです。時間はかかるんですけど、地域の気候風土と木の個性を生かした乾燥なんです。磨き丸太を作る過程で、地域の水、井戸水を使います。自然の中でできる美しいものとして、磨き丸太以外にありません。ある種、原点回帰的な美しさの価値があります」と磨き丸太に惚れ込む。

ポールハンガーがデザインコンペで入選 「エコで伝統ある磨き丸太の技術を活かす」

今回の木材を使った「家具コンペ」は新商品。しっかりと土台を付けて、店舗什(じゅう)器として世の中に発信して作ったもの。税別で6万3000円。森本専務は「磨き丸太の技術やサイズ感、用途など、本当にいい形で世の中に対して提案ができたかなと思います。数字の100『ワンハンドレッド』は数字に対しての価値観を世の中に問いかけたくて」と説明する。

ハンガー以外にも、丸太をくり抜いたスツール、ヒノキの枝を生かしたベンチ。ダンベルなどいろんなものにチャレンジしてきた。「B to Cだと、どこの誰が買ってくれたかわかるわけですよ。そのことで、コミュニケーションが生まれるようになりまし。雨の日は、林業チームも仕事できないので、森庄で仕事するんです。林業会社の経営者として雨の日の仕事をつくる、というのは絶対だったのです。やっぱり従業員さんのやりがいにつながっていると思います」と力を込める。



入選作のポールハンガー
「THE HINOKI 100」



丸太をくり抜いたスツール



○創業=昭和2(1927)年
○代表取締役=森本定雄
○従業員=12人
○資本金=3000万円
○事業内容=森林管理・林業活性化事業、建築用木製品製造・販売、木質空間企画、インテリア企画・販売
○本社住所=宇陀市菟田野古市場511-2
○電話番号=0745(84)2021
○ファクス=0745(84)4085

「林業家としてこういう生き残り方があって、こういうのをしっかり示していくと、建築のことを今すごく勉強しています。森づくりをされている方々の思い、技術や木材そのものを届けられるように、ある種メーカーでもあり、コーディネーターでもあり、そういう動きを加速していきたいなと思います」と意気込みをのぞかせた。

会社として目指すところは、森の価値の可能性を止めないことを基軸に置く。それには、林業会社として雨の日の仕事をつくり、安定的な雇用と地域の活性化につなげていくことが肝心だと話す。

「磨き丸太の技術やサイズ感、用途など、本当にいい形で世の中に対して提案ができたかなと思います。数字の100『ワンハンドレッド』は数字に対しての価値観を世の中に問いかけたくて」と説明する。



<http://www.morisho-meiboku.co.jp>